

TECHNICAL DATA

仕上げの種類	可とう形下地調整塗材
製品名	ネオモル G

第5版 作成日： 2014年11月26日



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 仕上げの種類 : 可とう形下地調整塗材
- 製品名 : ネオモル G
- 適用範囲 : 各種仕上塗材の改修下地調整
金属屋根、金属タンク等の防錆・防食改修 等
- 工程 :

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間	標準施工面積
下地調整	ネオモル G 主材 : 10kg 混和液 : 5kg 清水 : 0~1 L	リシンガン 口径 : 5~6mm 吹圧 : 0.5~0.6MPa	2	24 以上 工程内 3 以上	約 6 m ² /セット

所要量 : 約 2.5 kg/m²

単位容積質量 : 約 1.7kg/ L

練り混ぜ後の可使用時間 : 30 分以内 (20℃)

注 1. 下地の状況に応じて、適切な下塗材を選定して施工して下さい。

- 工 法 :

(1) 下地処理

- ・コンクリート面の突起物、レイトンス及び白華は、グラインダーがけ又は皮スキ等で除去して下さい
- ・汚れ及び付着物は、ワイヤーブラシ・研磨紙・布等で除去し、必要の応じて水洗いを行って下さい。
- ・下地のひび割れ、破損、浮きなどはBR工法等で適切な処理をして下さい。
- ・旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工して下さい。
- ・鋼板等の下地の場合は錆を十分に除去して下さい。
- ・下地面が極度に乾燥している場合は水湿しを行って下さい。

(2) 材料の取扱い (練り混ぜ)

- ・主材はあらかじめ空練りを行い、混和液は攪拌した後、練り混ぜを行って下さい。
- ・練り容器を用い、ネオモル G 混和液 1 缶 (5 kg) 中にネオモル G 主材 1 袋 (10kg) を徐々に加え均一に混練し、必要に応じて清水 0 ~ 1 L で粘度調整し、ふるい (1 ~ 2 mm 目) でこして下さい。

(3) 下地調整

- ・ 一度に厚みを付けず2回吹きで所定の塗り厚に仕上げてください。
- ・ 工法は吹付けとし、リシンガンのノズルを下地面に対して直角に保ち、模様むら・吹き継ぎむら・吹き残しのないように注意して行って下さい。
- ・ 可使時間は30分(20℃)により、それまでに使い切ってください。

● 荷 姿

下地調整材： ネオモル G

主 材 NET： 10kg/袋

混和液 NET： 5kg/缶

成分表

● 主 材

内 容	重 量 (%)
無機質結合材	39.2
骨材	58.8
添加剤	2.0
計	100.0

● 混 和 液

アクリル樹脂エマルジョン	75.8
水	23.0
添加剤	1.2
計	100.0

性能試験成績書

種類	可とう形下地調整塗材		
商品名	ネオモル G		
供試材料	ネオモル G [主材] [混和液]		
試験項目	試験方法		結 果
可とう性	自社法(曲げ試験 40φ, 120°)	温度条件 : 0℃	異常なし
		温度条件 : 20℃	異常なし
		温度条件 : 50℃	異常なし
ゼロスパン テンション	自社法(引張速度 : 5mm/分)		2.0mm
透水性	JIS A 6909 - 2014 透水性 B法 準拠		0.1ml
透水性	JIS A 1404 (水圧 : 3 kgf/cm ² , 1時間)	透水量	0.5g
		透水比	0.01
吸水性	JIS A 1404	1 時間後 : 吸水量	0g
		吸水比	0
		5 時間後 : 吸水量	0g
		吸水比	0
		24 時間後 : 吸水量	0.8g
		吸水比	0.02
付着強さ	JIS A 6916	下 地 : モルタル	1.2N/mm ²
		下 地 : 鋼 板	1.4N/mm ²
圧縮強さ	JIS R 5201	養生期間 : 7 日	9.3N/mm ²
曲げ強さ	JIS R 5201	養生期間 : 7 日	2.9N/mm ²
—以下余白—			

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

施工にあたっての要点

●施工

- 【1】 色・模様決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。
- 【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。
- 【3】 所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の塗付量を守って施工して下さい。

●材料

- 【1】 材料は直射日光下及び0°C以下での保管は避けて下さい。
- 【2】 製品は、湿気に注意し、水かかりを避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管して下さい。
- 【3】 施工時は換気を十分に行って下さい。

●工法

- 【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。
- 【2】 製品はミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【3】 製品は空練りを行った後、練り混ぜを行って下さい。
- 【4】 練り水及び希釈水は必ず清水を使用して下さい。
- 【5】 練り混ぜ後、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、練り混ぜ後はなるべく早く使い切ってください。
- 【6】 可使時間の過ぎた材料を、練り直して再度使用しないで下さい。
- 【7】 練り足し、水を加えての練り戻しはしないで下さい。
- 【8】 表面に白華が発生した場合は水洗い等により除去してから次工程の作業を行って下さい。

●施工管理

- 【1】 施工場所の気温が5°C以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。
- 【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。
- 【3】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。

- 【4】 養生を剥がす際は、十分に注意して行って下さい。
- 【5】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度の上昇を防止して下さい。
- 【6】 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜて下さい。
- 【7】 既調合タイプに製品に現場で、セメント、砂等の指定材料以外を使用しないで下さい。
- 【8】 小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。

●その他の注意事項

- 【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。
- 【2】 磁器タイル洗浄用の酸が他の仕上材表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。
- 【3】 施工器具・条件は代表的なものです。
施工器具、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。
- 【4】 標準施工面積・所要量及び間隔時間の値は標準的なものです。施工器具、タイルの種類、目地幅、塗り厚により異なります。
- 【5】 改修・改装工事の場合は、弊社最寄りの営業所にご相談ください。
- 【6】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS（安全データシート、旧MSDS）を参照して下さい。

*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。